

石川県立金沢北陵高等学校							
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 遅刻・欠席を減らし服装容儀を整えるなど基本的生活習慣、規範意識の一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻・欠席の減少に努める。また登校指導等により挨拶の励行を推進する。	生徒指導 学年 各教科 全職員	欠席は個々の事情にもよるが増加した。遅刻・早退は減少したが、引き続き取り組む必要がある。また、自ら進んで挨拶をする生徒を増やしたい。	【成果指標】 遅刻者数の減少に努める。	遅刻者数が1日平均 A 3人未満であった B 5人未満であった C 7人未満であった D 7人以上であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎月調査
				【努力指標】 生徒自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	生徒指導 全職員	服装・頭髪を注意されたあとも、繰り返す傾向が見られる。	【満足度指標】 様々な機会を捉え、服装・頭髪に関する注意を与えることにより、自発的に規律・マナーの向上に努める。	北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守っていない	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	保健相談 学年 生徒指導	生徒の行動や悩みについて担任だけでなく全職員が対応できる雰囲気作りが必要である。	【満足度指標】 全教員が生徒の行動や悩みについて見守り、声かけや相談に乗ってくれる。	自分の行動や悩みについて先生方は A いつも注目し相談に乗ってくれた B だいたい注目し相談に乗ってくれた C あまり注目せず相談に乗ってくれなかった D ほとんど注目せず相談に乗ってくれなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
2 少人数授業の効果的指導法や授業改善に努め、基礎学力を定着させるとともに、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	教務 各教科	授業では生徒の発言や活動を促す授業展開を図るため、授業の工夫が必要である。	【努力指標】（教職員） 授業評価や研究・公開授業・授業参観などを実施し、特に少人数授業の工夫に努める。	授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	生徒の興味・関心を引き出すためにさらなる授業改善が必要である。	【満足度指標】（生徒） わかる授業や興味関心を引き出す授業の工夫が感じられる。	わかる授業や興味関心を引き出す授業の工夫が A 十分に感じられる B だいたい感じられる C あまり感じられない D ほとんど感じられない	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	授業以外の平均学習1時間以上の生徒は半数に満たない。引き続いて学習時間を確保する取り組みが必要である。	【成果指標】（生徒） 自主的な学習を継続的に取り組むことができた。	授業以外の平均学習が、一日平均1時間以上の生徒が A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	定期的に調査
	④ 個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	各教科 学年 進路指導	多様な進路実現に向け、一人ひとりに応じた学力向上の方策が必要である。	【努力指標】 放課後などの時間で積極的に補習や個人指導を行い、学力の向上を図った。	授業外で補習や個人指導を A 積極的に行っている B 必要に応じて行っている C 時々行っている D ほとんど行っていない	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 組織的な進路指導により履修や進路についてのガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学習ができるように支援する。	進路指導 教務 学年 企画	多様な進路希望に対応するために組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能の充実が求められる。	【努力指標】 本校総合学科の教育課程を理解し、多様な進路実現に向けて科目選択等の生徒への支援を充実させる。	本校教育課程を理解し、生徒への助言・支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない	A+Bの合計が90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路行事・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通じて、進路について意識し考えることができた。	進路行事・「産社」・「総合」の学習が A 進路を考える上で、大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの合計が80%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② 各種資格、検定試験に取り組む機会を設け挑戦する意欲を喚起する。	各教科 学年 進路指導	個別指導や各種資格、検定試験に対する一層の取り組みが求められる。	【成果指標】 各種資格試験に多くの生徒が挑戦した。	受験者数（延べ）が、 A 1000人以上であった B 850人以上～1000人未満であった C 750人以上～850人未満であった D 750人未満であった	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	③ 保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	進路指導 学年 企画	保護者に対する進路情報提供を工夫し内容をさらに充実させる必要がある。	【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されていた。	提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が80%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
4 部活動の積極的な加入・活動を推進し、その活動を通して活力ある学校生活の充実を図る。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	特活 全職員	部活動加入率は80%弱である。充実感・達成感を得させる指導が求められる。	【努力指標】 部員に目標を持たせ、充実した活動になるよう支援する。	教職員は部活動の指導に A ほぼ毎回参加し、十分な支援ができた B 週2～3回活動に参加し、概ね支援ができた C あまり参加せず、十分な支援をしていない D ほとんど参加せず、支援もしていない	A+Bの合計が80%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【満足度指標】（生徒） 部活動に積極的に参加し、目標を持って活動することができた。	私は A ほぼ毎回部活動に参加した B おおむね部活動に参加した C あまり参加できなかった D 参加できなかった	A+Bの合計が70%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② 地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活 全職員	地域社会の一員として、社会に貢献する精神を育むことが必要である。	【成果指標】（生徒） 清掃活動や地域行事、ボランティア等に参加した。	休日も含めて一度は参加した生徒が（半期） A 200人以上であった B 150人以上～200人未満であった C 100人以上～150人未満であった D 100人未満であった	C、Dの場合、 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査 （半期・年間調査）